

CFIR を使った促進阻害要因の特定の手順

1) 実装の促進阻害要因特定の基本プロセス

まず研究者と、プログラムの開発者や提供者、現場の実践家などの多職種チームを作る。

1. 想定される促進阻害要因についてブレインストーミング

現場の実践家に自身の経験の基づく実装の促進阻害要因について語ってもらい議論する。さらに、過去のニーズアセスメントの結果や、文献検討の結果、さらにこれらの複数の情報について、一致する点や一致しない点などを考慮して、ブレインストーミングをチームで行い、今回の文脈に沿った、想定される促進阻害要因を特定する。想定される促進阻害要因を特定するには real-world experience（現場の臨床家の経験）と published evidence（先行研究などの文献から得られる情報）のどちらも大事である。

2. 理論、モデル、枠組み（TMF）を使って、促進阻害要因を特定

理論、モデル、フレームワーク（Theory, Model, Framework: TMF）を使って、1で特定した想定される促進阻害要因を確定させる（TMFで裏付ける）、あるいは、1では特定されなかった、新たに想定される促進阻害要因として追加する。使用するモデルは、実装研究の決定要因モデルの中の、Social Ecological Model（SEM）や Normalization Process Theory（NPT）、また Consolidated Framework for Implementation Research（CFIR）など。

3. 促進阻害要因について新たなデータを収集

2で特定された（想定）促進阻害要因を裏付ける、または追加の要因を特定するために新たなデータを収集する。質的データ（アンケート調査やルーティンで収集されているデータなど）および量的データ（インタビューや観察など）を両方収集して統合することが望ましい。CFIRの inner setting のいくつかの項目は質問票が開発されている（CFIR 総合サイトに[リンク](#)あり）。

4. 優先度の高い促進阻害要因の特定

重要性 importance（その要因はどのくらい実装と関連があるか）と変更可能性 changeability（実装戦略によって改善が見込まれるか）の2つの視点で優先度の高い促進阻害要因を特定する。どちらも高い要因は優先されるが、変更は難しくても重要性が高い要因も優先度は高くなる。最終的にはこの2つの視点を用いながら、それぞれの文脈で判断される。また、別の方法として、実装マッピングのロジックモデル（促進阻害要因→実

装者の行動目標→実装アウトカム→健康アウトカム)¹⁾を描き、どの要因がより実装を促進/阻害するかを考察することで、優先度を特定する。

引用文献

- 1) Fernandez ME, Ten Hoor GA, van Lieshout S, Rodriguez SA, Beidas RS, Parcel G, Ruiters RAC, Markham CM, Kok G. Implementation Mapping: Using Intervention Mapping to Develop Implementation Strategies. *Front Public Health*. 2019 Jun 18;7:158. doi: 10.3389/fpubh.2019.00158. PMID: 31275915; PMCID: PMC6592155.

参考文献：

Practical Implementation Science: Moving Evidence into Action (Chapter 5. Understanding Barriers and Facilitators for Implementation Across Settings). Bryan J. Weiner, Cara C. Lewis, Kenneth Sherr. Springer Publishing Company, 2022.

[Practical Implementation Science \(springerpub.com\)](https://www.springerpub.com)

2) CFIR を使った質的な促進阻害要因特定の手順

上記プロセス3について、CFIR を使った質的に促進阻害要因のデータを収集する手順について参照できる論文を下記に示す。

CFIR オリジナル論文

[Fostering implementation of health services research findings into practice: a consolidated framework for advancing implementation science | Implementation Science | Full Text \(biomedcentral.com\)](https://www.biomedcentral.com)

CFIR を使った促進阻害要因特定のモデル論文

[Evaluation of a large-scale weight management program using the consolidated framework for implementation research \(CFIR\) - PubMed \(nih.gov\)](https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/)

米退役軍人省が実施する体重管理プログラム（MOVE）の実装の促進・阻害要因を明らかにした研究。実装が進んでいる施設と進んでいない施設のそれぞれの介入実施者に半構造化インタビューを行い、実装の程度の差が CFIR 構成要素のどの要因で説明できるかを特定した。（組織レベルの要因特定が目的であるため、「IV個人特性」は最初から除外）

CFIR インタビューガイド

[CFIR 総合 web サイト](#) および [CFIR 日本語版](#) では、具体的な質問文を記載したインタビューガイドのサンプルを公開している。一方、このガイドの各質問をすべて聞くのは現実的

ではない。例えば、CFIR の 5 領域について EBI の促進・阻害要因は何だと思うか、という間口の大きな質問を行い、インタビューガイドの項目は追加質問（プローブ質問）として用いるとよい。

※CFIR を使って促進阻害要因を明らかにした学術論文の中には、インタビューガイドを添付資料として公開している場合もあり参考になる。上記モデル論文で用いられた CFIR に基づいた半構造化インタビューのインタビューガイド

https://static-content.springer.com/esm/art%3A10.1186%2F1748-5908-8-51/MediaObjects/13012_2012_628_MOESM1_ESM.doc

3) CFIR コーディングの手順

原則として上記モデル論文にそって進めるが、モデル論文に書いていない点で、これまでの進め方でやってみてよかった工夫を以下に記載する。

1. 質的研究の質を高めるチェックリスト ([COREQ](#)) にまず目を通す。あとからできないものがあるので（例：インタビューごとの阻害促進要因のサマリーを、インタビューイに確認してもらう）、先にやることを整理しておく。
2. 分析をする研究者間で、分析で用いる CFIR 全項目の本研究における各定義について認識を統一する。できれば明文化しておくとうい。
3. 分析用のエクセルシートを作成する。CFIR の short description をコーディング用のエクセルに入れておくと参照しやすく、思い込みで間違ったコードを付けるリスクが減らせる。この研究での construct の具体的な定義をその下にメモとして入れておくとうい。
4. 2 人の研究者が独立して、文字起こしデータの中から実装に影響する要因と思われる発言を抽出し (①)、CFIR 項目のどれかに分類しコードをつける (②)。
 - ① 文字起こしから該当部分をコピーしてそのまま貼り付けた分類表を完成させる。
 - ② ①の分類表をコピーした分類表で、該当部分の発言を、コード名（インタビュー内容に基づいた簡潔な表現）をつける
5. 2 人の分類表を突き合わせて、異なった分類やコードの箇所を話し合い、統合する（この時点で、CFIR の枠組みで整理された影響要因のリストができあがる）
→データ収集が完了していなくても、初回インタビュー完了時点でコーディングを行い、そこでの不一致点の議論を一度研究チームで行っておくと、その後のコーディングが円滑に進む。またその後のインタビューもよりスムーズに促進阻害要因を引き出せる。

※実装の程度が高い施設と低い施設の両方を対象にすると、両者の抽出された影響要因を比較することで、促進阻害要因を特定しやすい

※コーディングはなるべくインタビューから時間を置かずに行い、2名で行うコーディングのすり合わせも、週一回など定期的に行うとよい。

※オプションとして、要因間の関係性や時系列に沿った変化などの関連図を書いて、要因がどのように実装に作用しているのかを理解する作業をすると重要な要因がわかってよい。

(論文内の figure 1 では develop/build on memo に該当するが、関連図を描くのは必須ではない。)

6. 最終的な分類表(+関連図)を元に、分析者以外の研究者や現場のステークホルダーを交えた討議を行い、促進阻害要因の結果を集約する。

※いくつかの論文では要因の rating も推奨されているが、これは必須ではない

<参考サイト>

CFIR 総合 web サイト

[The Consolidated Framework for Implementation Research – Technical Assistance for users of the CFIR framework \(cfirguide.org\)](https://cfirguide.org/)

本サイトの Tools のタブボタンを押すと現れる「Tools and Templates」のページより、データ収集およびデータ分析で使用できる数種類のテンプレートが入手可となっている。

CFIR 日本語版

[翻訳書『実装研究のための統合フレームワーク-CFIR-』 | RADISH - D&I 科学研究\(普及と実装科学研究会\) \(radish-japan.org\)](https://radish-japan.org/)

COREQ

<https://www.equator-network.org/reporting-guidelines/coreq/>

作成：国立がん研究センター行動科学研究部
N-EQUITY 運営事務局
齋藤順子、島津太一

(本資料作成にあたり千葉大学子どもこころの発達教育研究センター高階光梨さんよりご助言を頂きました。ここに感謝の意を表します。)